

国際協力特別賞

世界とつながる私たち

岐阜県立大垣工業高等学校 1年 コルキ ナイロビ

現代を生きる私たちは、グローバル化などにより、世界とのつながりがより深く、そしてより身近なものになっていると思います。そんな現代を生きる私たちがより明るい未来を作るために今何をすべきかを、今まで私が見たもの、聞いたもの、そして実際に自分が体験してきたことを踏まえて考えてみました。

私はアメリカ人の父と日本人の母を持ち、両親の影響で様々な人種や国籍の方々と接してきました。その方々と関わる度に、自分の知らない文化に驚かされています。それと同時に、私が当たり前だと思っていることなども、世界の人々から見たら当たり前ではないということもあるのだと実感しています。私は自分が知らなかった文化に触れるとき、とても興味深く、面白いと感じます。私と同じように考える人も多いと思いますが、中には人種や国籍、文化で差別をする人々がいます。私の父親の友人は、黒人ということで長い年月差別に苦しんだという話を聞きました。私も日本で育ってきた中で、小学生のときに名前や容姿について中傷されたことがあります。差別をしたり、傷付く言葉を使う人は、軽い気持で発言や行動をしているかもしれませんが、差別をされた方は、中々忘れることができなかつたり、とても傷付いたりしているかもしれません。そして、今でも差別に苦しむ人々は多くいると思います。これからの未来で差別を減らすために今私たちができることは容姿や文化の違いは個性だという事、皆同じ人間であり、心がある事を理解し、広げていく事だと思います。

差別だけでなく、言語の壁で苦しんでいる人々も多くいると感じています。二年ほど前に、お店で外国人の男性が店員さんとの会話に困っているところを、姉と二人で見つけました。幸いなことに、姉と私は日常会話レベルの英語は話すことができたので、通訳をすることができました。外国人の男性は、アフリカのケニアから来ていて、商品の値下げができると思っていて、店員さんに値下げの交渉をしようとしていました。彼に日本ではできないという事を伝えると、納得して下さり、「助けてくれてありがとう。」と伝えてくれました。その時私は「英語を勉強していて良かった。」と思うのと同時に、まだ世界共通語である英語を話す人が多いとは言えない日本で困っている外国人の方は沢山いるのだと感じました。さらに今は、ロシアとウクライナの戦争により、日本へ避難してきている難民の人々が多くいます。その人々も全く違う言語で、伝えたい事を上手く伝えられなかつたり、相手の伝えたい事を正しく理解できなかつたりして、苦しい思いをしていると思います。そのような人々を苦しい思いから救うために、「言語が違うから仕方がない。」と考えるのではなく、インターネットで自分から調べるなど、積極的にコミュニケーションをとる必要があると思います。

例え言葉が通じなかつたり、初めて知る文化に直面したりしても交流を取ることを諦めず、自分から進んで行動したり、理解できるように努力をすることが大切だと思います。言葉は伝わらなくても、相手を理解しようと努めていることは伝わると思います。

私は今後の人生で、言語や文化の違いで困っている人を見かけたとき、自分から助けに行けるようにしたいです。また、その準備として、英語力を伸ばし、他の言語にも挑戦したいです。様々な国の異文化を理解することは、日常生活の中で自分と意見や考え方が異なる人と出会った時に、その人の考えを完全に否定するのではなく、理解しようとするにもつながると思うので、明るい未来を目指し、日頃からそのようなことも意識しながら生活していきたいです。